

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：24506

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K15548

研究課題名（和文）瀬戸内海の祭りにおける海と地域がつながる文化的空間の本質的価値と継承課題の解明

研究課題名（英文）Research on the value and issues of cultural spaces related to festivals along the Seto Inland Sea coast

研究代表者

大平 和弘（OHIRA, KAZUHIRO）

兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・講師

研究者番号：90711169

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、瀬戸内海沿岸に位置する8府県の513件の祭りを対象に、祭りが執り行われる文化的空間の実態や課題を明らかとした。その結果、祭りの文化的空間は、その土地の地形・立地や歴史的な文脈により、様々なタイプが地域的なまとまりをつくりながら偏在していることが明らかとなった。また、文化的空間の保護には、祭りの無形的要素や空間の物的要素の保存に留まらず、地域ごとに文化的空間の本質的価値を明確化した上で、祭りを継承するコミュニティに対する外部支援等も重要であることが考察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国内の現行法では保護を講じることができず、研究の蓄積がない「文化的空間」という文化遺産カテゴリーを対象とし、文化的空間の実態や成立、継承課題を明らかとしたもので、わが国の文化財行政の保護施策拡充に寄与する基礎的知見となると考えられる。さらに、多様な文化的空間タイプの地域的偏在性を明らかにしたことにより、瀬戸内海文化における文化多様性保全につながる知見を有していると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the current status and issues of the cultural spaces where festivals are held, focusing on 513 festivals in 8 prefectures facing the Seto Inland Sea. The results showed that various types of cultural spaces are unevenly distributed depending on the topography and history. And the results suggested that protecting cultural spaces requires not only preserving the intangible elements of the festivals and the physical elements of the space, but also clarifying the intrinsic value of the cultural spaces and providing support to the communities that maintain the festivals.

研究分野：ランドスケープ科学関連

キーワード：祭り 文化的空間 祭祀空間 文化遺産 景観 瀬戸内海

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

瀬戸内海沿岸では、古くから海と人が密接に係わりながら暮らしを営み、独特の文化を育んできた。しかし、高度成長期以降の沿岸部の開発、近年の急激な過疎化・少子高齢化、ライフスタイルの変化に伴い、海と地域の関係性が希薄化し、沿岸部固有の伝統文化が変容、消失しつつある。このような状況の中、海際で執り行われる伝統的な祭りの様相は、海と地域とのつながりを象徴する遺産的価値を有しているといえる。

一方で、海際の祭りは、砂浜や港などの海際のオープンスペースと不可分な関係にあると考えられる。たとえば、神輿と担ぎ手が海に飛び込む祭りでは、神輿や所作などの要素が形式化して継承されたとしても、それを行う空間である砂浜や港などの海際のオープンスペース等の様相が変容・消失した場合、祭りの本質的価値が著しく損なわれることが危惧される。観光や地域再生につながる資源として地域固有の文化遺産の価値が見直されてきている昨今、祭りの継承だけでなく、祭りをを行う上で不可欠な「文化的空間」も一体的に保全する必要があると考えられる。

このような文化的空間の保護に関する国際的動向としては、2003年にユネスコ総会で採択された「無形文化遺産保護条約」¹⁾の中で、祭祀や芸能を行う上で不可欠な空間を「文化的空間」とし、保護対象として明記されている。しかしながら、我が国の文化財保護法においては、文化財の種類として文化的空間は存在せず、祭りに関連する保護措置としては、有形民俗文化財として信仰や年中行事に用いられる道具等が指定されるほかは、無形民俗文化財として施設や用具の新調、修理等に補助金を交付するのみであり、現行法では文化的空間に対して直接的な保護を講じることができない。また、文化的空間に類する文化財として、2005年に文化財保護法に新設された「文化的景観」の検討段階においては、無形的要素である伝統的祭りなどの習俗行事にかかわる景観が選定基準に存在した²⁾。しかしながら、有形文化財を扱う「記念物」の枠組みを中心に文化的景観の概念が提唱されていたため、最終的に文化的景観の選定基準に至らなかった。したがって、わが国は祭りにかかわる文化的空間に対し、一切の保護施策を持たない。そのため、祭りにかかわる文化的空間は、今後人口減少や空間改変等に伴って、消失する危険性が高い危機的状況にあるといえる。

一方で、文化的空間と関連の深い政策として、文化多様性の理解や先住民族への配慮を求める社会情勢に鑑み「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」が2019年に施行され、北海道白老郡白老町に整備された「民族共生象徴空間」が2020年に開業する³⁾。この象徴空間では、アイヌの伝統的儀式を再現した空間が整備されており、わが国初の文化的空間の復元・活用事例として注目されている。今後ますます、国内外において文化的空間の保護・継承に対する社会的気運が高まるものと考えられ、文化的空間の価値創出や保護に関する知見の集積が求められる。

2. 研究の目的

本研究では、瀬戸内海沿岸における伝統的な祭りを対象に、祭りが執り行われる文化的空間の分布や立地、空間特性の実態を明らかとするとともに、祭りの運営主体等へのヒアリングを通じた文化的空間の利用状況とその変化を把握し、文化的空間の本質的価値を継承する上での空間的・社会的課題を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

瀬戸内海沿岸に位置する兵庫県・大阪府・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県

の8府県を対象に、国・県・市町村指定（登録）の無形民俗文化財を有する84市町から神事や祭祀、習俗・行事、祭礼等の祭りを抽出した。次に、各祭りに関する情報を文化財報告書や市町公式HP等の公開データより収集し、祭りの種類を儀式、弓・流鏑馬、舞・神楽、獅子舞、踊り・風流、神輿・屋台、だんじり・山車、行列、鬼追い、火祭り・とんど、田植え、船渡御・船行列、船競争、念仏、厄除け・参詣、盆踊り、人形、歌舞伎、その他唱など、不明の20種に分類した。さらに、各祭りの価値記載に関わる部分が執り行われる場所より、文化的空間タイプを、神社社殿内、神社境内、神社境内および街路・御旅所、寺堂内、寺境内、公園・広場、街路・畦畔、山・森、水辺、各家、特定の場所なし、不明の12種に分類し、分布傾向を把握し、これらに地域的偏在性が生じる理由を考察した。

また、新型コロナウイルスの影響により研究機関中に中止や縮小がなされずに祭りが開催され、現地調査が可能であった岡山県笠岡市の海際で開催される祭礼を事例に、祭りの記録調査と祭りの運営主体等へのヒアリングを実施し、文化的景観の利用状況と祭りの運営や文化的空間の空間的・社会的課題を明らかとし、本質的価値とその継承課題を考察した。

4. 研究成果

瀬戸内海沿岸に位置する兵庫県・大阪府・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県の8府県84市町を対象に無形民俗文化財の祭りを抽出した結果、513件（国指定15、府県指定133、市町指定313、選択・登録52）となった。これらの祭りの種類を分類した結果、多い順に踊り・風流（90件）、舞・神楽（74件）、獅子舞（53件）、行列（44件）、神輿・屋台（35件）、盆踊り（33件）と続き、神社への奉納や雨乞い等の舞や舞踊が多くを占めた。祭りの種類と府県の関係に着目すると、踊り・風流は愛媛県が半数程度を占め、舞・神楽は広島・山口両県で6割以上、田植えは兵庫・大阪両県で7割以上を占めるなど、府県による偏りがあった。鬼追いはすべて兵庫県、厄除け・参拝はすべて大阪府など府県固有の祭り種類も存在した。

一方、祭りが執り行われる場所より、文化的空間タイプを分類し、図1のように示された。その結果、各府県4～6割以上の文化的空間が、神社及びその境内や御旅所などに位置していることが明らかとなった。また、

兵庫県から山口県に至るにしたい、神社境内や集落・御旅所を有するタイプが減少し、社殿内で完結するタイプが増加することも読み取れた。一方、大阪府・兵庫県などの都市部で寺本堂や境内に位置するものがやや多く、その他の県では僅かであった。さらに、公園・広場や街路などのオープンスペースも各府県一定程度存在し、広島県・山口県において比較的多い傾向にあった。本研究の主眼である海と一体的な港や砂浜などの水辺が文化

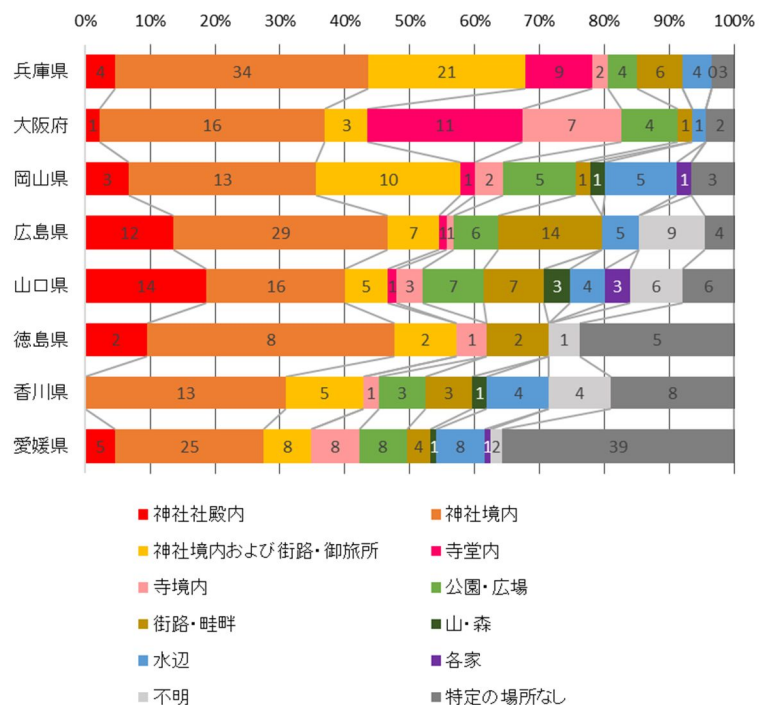


図1 府県別の文化的空間タイプ

引用文献

- 1) UNESCO (2003) Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage
<<https://ich.unesco.org/en/convention>>
- 2)文化庁文化財部記念物課(2005)日本の文化的景観 農林水産業に関連する文化的景観の保護
に関する調査研究報告書、同成社、東京、323pp.
- 3)アイヌ総合政策推進会議(2016)「民族共生象徴空間」基本構想
- 4)岡山県教育委員会(1996)岡山県の民俗芸能 - 岡山県民俗芸能緊急調査報告書 - 、 pp.71-76

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大平和弘	4. 巻 1
2. 論文標題 播磨灘・大阪湾沿岸域における伝統的な祭りの空間の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2021年第4回都市環境デザインセミナー	6. 最初と最後の頁 9-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大平和弘	4. 巻 2
2. 論文標題 伝統的祭りの文化的空間から捉えた地域性とオープンスペースの可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市や地域に関する知の冒険報告書	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大平和弘
2. 発表標題 播磨灘・大阪湾沿岸域における伝統的祭りの空間について～関西圏の広域的な特徴とコミュニティ形成からみたオープンスペースの可能性に着目して～
3. 学会等名 都市環境デザイン会議関西ブロック（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大平和弘
2. 発表標題 伝統的祭りの文化的空間から捉えた地域性とオープンスペースの可能性
3. 学会等名 日本都市計画学会関西支部
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大平和弘
2. 発表標題 播磨灘・大阪湾沿岸域における 伝統的祭りの空間
3. 学会等名 都市環境デザイン会議（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 上甫木昭春・押田佳子・上田萌子・大平和弘	4. 発行年 2023年
2. 出版社 PHP	5. 総ページ数 284
3. 書名 神宿る隣の自然	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------